

# 岩木川ダム 統管だより

039号  
2020年  
7月30日



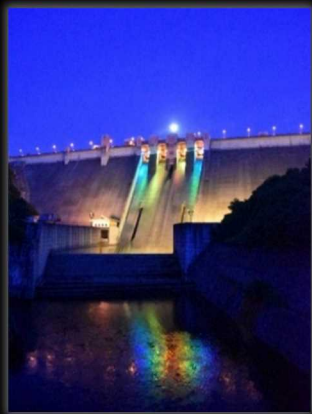
## 浅瀬石川ダム資料館・津軽ダム資料展示室 再開記念ライトアップを実施！



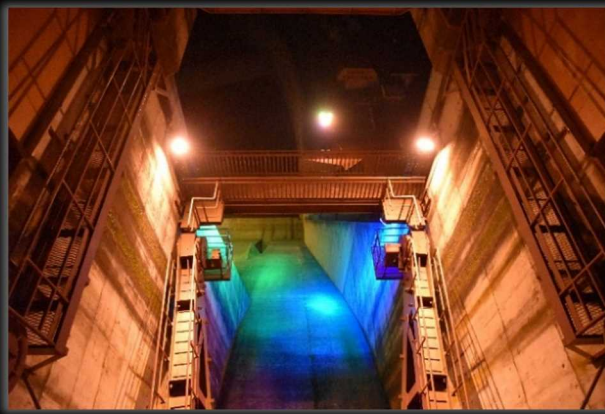
▲2日夜の津軽ダム、雨に反射するブルーライトが幻想的な空間を映し出しました。



▲2日夜、雨あがりの天端照明。地面への反射も雨天ならではの光景です。



▲3日夜の浅瀬石川ダム。月とライトアップ、そして水面に映る虹色を同時に楽しむことができました。



▲3日夜、天端からみるライトアップ。クレストゲートが照らされている様子を恐る恐る撮影。

令和2年2月28日から休館となっていた「浅瀬石川ダム資料館・津軽ダム資料展示室」が7月1日から平日（10時～16時）のみで開館となりました。

これを記念して、両ダムで7月1日～5日の5日間ライトアップを行いました。浅瀬石川ダムでは、希望と願いを込めた『レインボーライトアップ』を行い、津軽ダムは医療従事者の皆様へ感謝と敬意を表し『ブルーライトアップ』を実施しました。

3日（金）20時頃に浅瀬石川ダムライトアップをご覧になっていた黒石市の中村さんは、「浅瀬石川ダムのライトアップを見るのは初めて。何十年ぶりかここにこへ来た。とても綺麗です。」と話されました。一緒にお越しになっていた奥様は「ネットで情報見て来ました。つり橋から見る光景も綺麗。」と感動された様子でした。

両ダムではこれからも、季節ごとのライトアップを行っていきたいと考えております。ライトアップ等の情報は当HPや公式Twitterでお知らせいたします。

# 津軽ダムの適切な管理運用に感謝状が贈呈されました (岩木川地区土地改良区連絡協議会より)

津軽白神湖  
Tsugaru Shirakami Lake



▲右から、青森県土地改良事業団体連合会 油川潤一専務理事、岩木川地区土地改良区連絡協議会 増田教正会長、岩木川ダム統管管理事務所 長内伸夫所長、岩木川地区土地改良区連絡協議会 田中清栄副会長

お役に立てたことを本当にうれしく思います。このような感謝状をいただけるということは、職員一同仕事の励みにもなります。これからも適切なダム管理に努めて参ります。」と話されました。

令和2年6月26日(金)、岩木川地区土地改良区連絡協議会(増田教正 会長)より岩木川ダム統管管理事務所へ感謝状が贈呈されました。

この感謝状は、令和元年度の記録的な少雨のなかで関係機関との連携を図り、津軽ダムの適切な管理運用でかんがい用水の確保に努めたことに対し贈られたものです。

岩木川地区土地改良区連絡協議会の増田教正会長をはじめ、関係者の皆様から「去年は津軽ダムのおかげで何とか乗り切ることができた。西津軽地域の農家は本当にありがたいと言っている。」など、感謝の言葉を何度もいただきました。

その言葉を受け、当事務所の長内伸夫所長は、「営農する上での安心に繋がり、

黒石市の伝統的建造物群保存地区のこみせを生かしたまちづくりで

## 都市景観大賞優秀賞 ～青森県建築士会南黒支部～

(主催:「都市景観の日」実行委員会 後援:国土交通省)

令和2年度『都市景観大賞』景観まちづくり活動・教育部門で、青森県建築士会南黒支部の『まち歩きのユニバーサルデザインプロジェクト黒石2017～2019』の活動が「優秀賞」を受賞しました。

都市景観大賞は、景観に関する優れた地区を対象とする「都市空間部門」と、その地域に関わる人々の活動を対象とする「景観まちづくり活動・教育部門」の2部門で表彰を実施しています。

景観まちづくり活動・教育部門の評価ポイントは、「継続性」「地域社会との関わり」「独創性」「双方向性・対話性」「波及効果」の5点。青森県建築士会南黒支部の取り組みは上記の5点を満たし受賞に至りました。審査講評では、「黒石らしいユニークでユニバーサルなサイン整備を提案する活動は、歴史的な街並みをさらに魅力的にする試みとして評価できる。今後の公共と民間のサイン整備に期待したい。」と述べられています。

インバウンド需要の高まる中での受賞は、コロナウイルス感染症収束後の観光客受け入れに弾みがつき、街の賑わいに直結することと思います。変わりゆく時代の中に歴史的風情を残し、かつグローバル化に対応していくことが求められている現在。ダムツーリズムもグローバル化に対応する必要性を強く感じました。



▲同支部は平成9年からこみせを生かしたまちづくりをしてきました。昔のままの姿を残し平成27年に再生した“松の湯交流館”も同支部の取り組み



▲松の湯交流館内“交流の間”は会議、学習の他に持ち込んだお茶や弁当など飲食も可能となっている

## 東日本大震災から10年目

# 「3.11 伝承ロード」パネル展実施

備えることで救える

「いのち」がある

学ぶことで助かる

「いのち」がある



▲長内事務所長の案内のもとパネル展をご覧になれる高樋憲市長(右)



▲今回はパネルが23枚展示され、来場者の方は1枚1枚時間をかけてご覧になっていました。

会場にお越しになられた方々からお伺いしたお話をいくつかご紹介いたします。

震災直後、福島市内から孫たちが避難してきた時のことを思い出します。

パネルにあるように宮古市田老で明治29年と昭和8年に津波があり、多くの方が亡くなりました。その後防潮堤を築いたにもかかわらず東日本大震災でも大きな被害がでています。人は自分が経験しないとわからないものです。だからこそ、このような機会(パネル展)に足を運び、自分の目でみて経験を分かち合うことが大切だと思います。」

(黒石市 横山さん)

震災当時、東京都内でガス関連の会社で働いていたので、震災があると復旧支援の声がかかり、阪神淡路大震災、東日本大震災の被災地でガス供給のための復旧作業をした経験があります。被災しなくなった方の家の前に花がたむけられていました。自分たちはそのわきで、地面を掘削し工事を始めました。このパネル展をみていると、その時のシーンを思い出します。

(黒石市 比内さん)

令和2年7月1日(水)から7日(火)、黒石市産業会館で「3.11 伝承ロード」パネル展を実施しました。

これは、黒石市役所等を会場として実施を予定していた防災通信訓練に関連して実施したもので、地震に限らず、水害・土砂災害等に対する市民の防災意識を一層高めることを目的としています。

(防災通信訓練は令和2年7月豪雨災害を受け延期となりました。)

開催初日の1日、高樋憲 黒石市長が会場を訪れました。会場では、当事務所の長内伸夫所長が展示パネルをもとに震災伝承施設の紹介や、黒石市の姉妹都市である宮古市の震災の記憶などを1枚ずつ説明し案内しました。

高樋市長からは、「これからはいろいろな地域で、このようなパネル展を実施して行って下さい。」と激励していただきました。

また、来場者アンケートでは、「津波に関わらず天災はいつか来るものとして日頃の心の準備が必要だと思う。」「パネル展示はとても入りやすく良い。」などのお声をいただき、開催の目的が来場者の心に届いたことを実感するとともに、継続的に防災啓発活動に努める必要性を感じました。



▲様々な世代の方が会場を訪れました。

「津波石」について興味があります。津波石があるということは、そこにいつかまた津波がくるかも知れないし、長い周期で津波被害は起こる可能性があります。人は同じ失敗を繰り返してきました。昔の人は高台に引っ越すという考えはなかったと思われ、被害があった地域(低い地域)にまた住み始めました。しかし東日本大震災後は、高台移転も行われ過去の教訓が生かされる形になったと思います。(黒石市 工藤さん)

自分は被災地に行ったことがないのでよい機会だと思いこのパネル展にやってきました。写真をみただけでもジーンとくるものがあります(涙を浮かべていらっしゃるご様子でした。)

人は自分が経験しないとわからないものですが、このような写真展をみることで共感し、自分も既に74才けれども、まずは自分がしっかりした上で、ご高齢な人とかが弱っている人に声をかけ助け合っていきたいと思います。(黒石市 匿名)

震災後の2011年と2012年、陸前高田市と大船渡市でボランティア活動をした経験があります。内容は、お礼状の代筆、個人宅の家財道具の敷地内での移動などでした。パネルで着実に復興している様子が見えてよかったです。(古村さん)



森と湖に 映像で楽しく学習！

親しむ旬間 2020

# ダムを知る動画配信中！



国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民の皆さんが森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため例年同期間に行っている「津軽白神湖まつり」および「浅瀬石川ダム ダム湖ふれあいデー」は行わず、WEB上で森林や湖に親しんでいただくために動画を作成しました。

動画では、浅瀬石川ダム・津軽ダムやダム周辺のアクティビティを各10分程度でPRしています。短い動画にも珍道中あり！？とても楽しく学べる動画となっておりますのでぜひご覧ください。

岩木川ダム統管理事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/>

令和2年度 森と湖に親しむ旬間

さわやかな心のオアシス 森と湖

7.21 ~ 31

津軽ダム (高目屋村)

浅瀬石川ダム (弘前市)

森と湖に親しむ旬間とは？

森と湖に親しむ旬間とは、国民の皆さんが森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

ACCESS

岩木川ダム統管理事務所

浅瀬石川ダム管理支所

〒036-1422 青森県中津軽郡西目屋村大字居森平字寒沢138-2  
TEL 0172-85-3035 FAX 0172-85-3061  
<http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/>

〒036-0604 弘前市大字居森平字居森平  
TEL 0175-54-8782 浅瀬石川ダム管理課 TEL 090-46-00

## 流木を一般提供いたします！

岩木川ダム統管理事務所（津軽ダム）では流木を希望者に提供（無償）します

◆提供：先着順

◆申込期間：令和2年8月24日（月）～

◆配布期間：令和2年8月24日（月）～  
無くなり次第終了  
午前9時～午後3時まで

◆配布場所：津軽ダム貯水池周辺  
（西目屋村 川原平 地内）

◆注意事項：運搬及び切断にかかる手間は自己負担とします

第三者への転売（売買目的）は禁止します。

※申し込み・問い合わせ先

岩木川ダム統管理事務所管理課 TEL0172-85-3007

流木提供場所  
（西目屋村  
川原平地内）  
※看板あり



岩木川ダム統管理事務所（津軽ダム）へのアクセス

- 東北自動車道大淵弘前ICから約60分
- 青森空港から約80分
- 弘前市街から約40分
- 西目屋村役場・道の駅津軽白神から車で約10分

## 編集後記

コロナ禍でのダムだより発行も4回目、計画通りに進まない広報活動にも行き詰まりを感じてきてしまいました。そんな中でも岩木川ダム統管理事務所への感謝状贈呈など明るいニュースも舞い込み、地域のみなさまに支えられて毎月発行できているんだなあとしみじみ感じております。

さて、今号の記事でも紹介した「森と湖に親しむ旬間」の動画ですが、とても面白い仕上がりとなっております。老若男女、皆様に楽しみながら学んでいただける動画となっておりますので、この夏はダムの勉強をしながら心身リフレッシュ!?しましょう🍏🍏🍏🍏（対馬）

### 編集・発行

国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統管理事務所

〒036-1422  
青森県中津軽郡西目屋村大字居森平  
字寒沢138-2

TEL 0172-85-3035

FAX 0172-85-3061



（ホームページ） （Twitter）

岩木川ダム統管理事務所  
ホームページアドレス  
<http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/>  
公式Twitter @mlit\_iwakito